



麻疹(2019年)

2019年、麻疹は1月から三重県、大阪府において大規模な患者発生があり、それ以降、医療機関、保育所、空港、イベントに関連した集団感染が各地で見られています。

麻疹は原則として全症例が地方衛生研究所等によるウイルス検査対象とされています。埼玉県衛生研究所においても例年と比較し検査症例数が増加し、2019年1~6月では183症例の検査が実施され、23症例から麻疹ウイルス(MV)遺伝子が検出されました(表1)。検出されたウイルスの遺伝子型はB3型が16症例、D8型が6症例でした。B3型、D8型とも、現在海外で流行中のものです。

検体と共に送られてきた検査票を基に、MVが検出された症例(n=23)と不検出だった症例(n=160)に分けて年齢(図1)、ワクチン接種回数(図2)、発熱及び発疹(コプリック斑を含む)出現状況を集計し、まとめました。年齢は0歳~68歳であり、MV検出例では30~39歳が最も多く43.5%、MV不検出例では0~9歳が最も多く40.0%でした。ワクチン接種歴有と回答した人は、MV検出例では30.4%、MV不検出例では54.4%でした。発熱がみられた人はMV検出例では100%、MV不検出例では95.0%でした。また、発疹がみられた人は、MV検出例では86.9%、MV不検出例では67.5%でした。

MV不検出症例からは、風疹ウイルス(16症例)、パルボウイルスB19(14症例、成人からの検出例複数あり)、ヒトヘルペスウイルス6(13症例)などが検出されました。

医療機関の先生方には速やかな急性期検体(咽頭拭い液、血液、尿)の採取にご協力くださいますようお願いいたします。

表1 埼玉県衛生研究所における麻疹ウイルス検査状況(ワクチン株は除く)

	麻疹検査症例数	麻疹ウイルス検出症例数	遺伝子型
2014年	41	13	B3型:10 D8型:2 H1型:1
2015年	7	0	
2016年	34	2	D8型:1 H1型:1
2017年	27	3	D8型:3
2018年	115	11	D8型:10 NT:1
2019年	183	23	B3型:16 D8型:6

2019年は6月末までの症例数
B3: フィリピンで多い

NT: 型別不能
D8: 東南アジア(ベトナム等)で多い

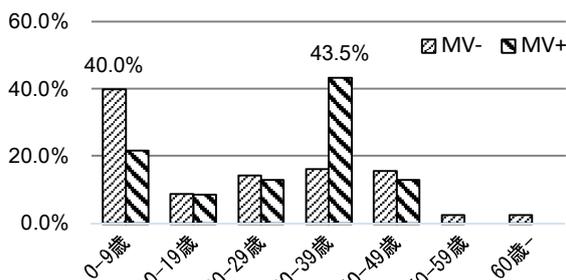


図1 症例の年齢

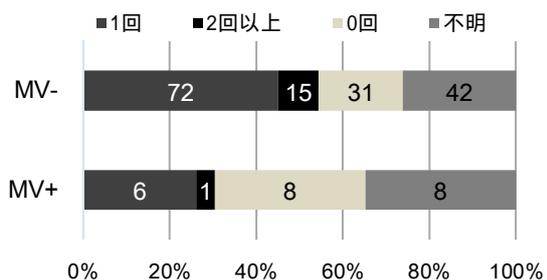


図2 ワクチン接種の回数